

第 1 章

概 要

注) 単位未満は四捨五入しているので、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

本県における平成23年の出生、死亡、自然増加数、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりで、平成22年と比べ、死亡、乳児死亡、周産期死亡及び妊娠満22週以降の死産は増加し、その他は減少している。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	平成23年	平成22年	対前年比	平成23年	平成22年	対前年比	平成23年	平成22年
出生	9,531	9,711	△180	7.0	7.1	△0.1	55'09"	54'07"
死亡	16,419	16,030	389	12.1	11.7	0.4	32'01"	32'47"
乳児死亡	23	21	2	2.4	2.2	0.2	380°52'10"	417°08'34"
新生児死亡	8	12	△4	0.8	1.2	△0.4	1,095°00'00"	730°00'00"
自然増加	△6,888	△6,319	△569	△5.1	△4.6	△0.5
死産	256	283	△27	26.2	28.3	△2.1	34°13'08"	30°57'15"
自然死産	120	142	△22	12.3	14.2	△1.9	73°00'00"	61°41'25"
人工死産	136	141	△5	13.9	14.1	△0.2	64°24'42"	62°07'40"
周産期死亡	40	39	1	4.2	4.0	0.2	219°00'00"	224°36'55"
妊娠満22週以後の死産	33	30	3	3.5	3.1	0.4	265°27'16"	292°00'00"
早期新生児死亡	7	9	△2	0.7	0.9	△0.2	1,251°25'43"	973°20'00"
婚姻	5,583	5,924	△341	4.1	4.3	△0.2	1°34'09"	1°28'43"
離婚	2,377	2,679	△302	1.75	1.96	△0.21	3°41'07"	3°16'12"

	平成23年	平成22年
合計特殊出生率	1.38	1.38

（全国）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	平成23年	平成22年	対前年比	平成23年	平成22年	対前年比	平成23年	平成22年
出生	1,050,806	1,071,304	△20,498	8.3	8.5	△0.2	00'30"	00'29"
死亡	1,253,066	1,197,012	56,054	9.9	9.5	0.4	00'25"	00'26"
乳児死亡	2,463	2,450	13	2.3	2.3	0.0	3°33'24"	3°34'32"
新生児死亡	1,147	1,167	△20	1.1	1.1	0.0	7°38'14"	7°30'23"
自然増加	△202,260	△125,708	△76,552	△1.6	△1.0	△0.6
死産	25,751	26,560	△809	23.9	24.2	△0.3	20'25"	19'47"
自然死産	11,940	12,245	△305	11.1	11.2	△0.1	44°01"	42°55"
人工死産	13,811	14,315	△504	12.8	13.0	△0.2	38°03"	36°43"
周産期死亡	4,315	4,515	△200	4.1	4.2	△0.1	2°01'48"	1°56'25"
妊娠満22週以後の死産	3,491	3,637	△146	3.3	3.4	△0.1	2°30'34"	2°24'31"
早期新生児死亡	824	878	△54	0.8	0.8	0.0	10°37'52"	9°58'38"
婚姻	661,895	700,214	△38,319	5.2	5.5	△0.3	00'48"	00'45"
離婚	235,719	251,378	△15,659	1.87	1.99	△0.12	02'14"	02'05"

	平成23年	平成22年
合計特殊出生率	1.39	1.39

注:1) 青森県の基礎人口は平成23年が1,360,000人、平成22年が1,369,629人である。

注:2) 全国の基礎人口は平成23年が126,180,000人、平成22年が126,381,728人である。

注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

1 出 生

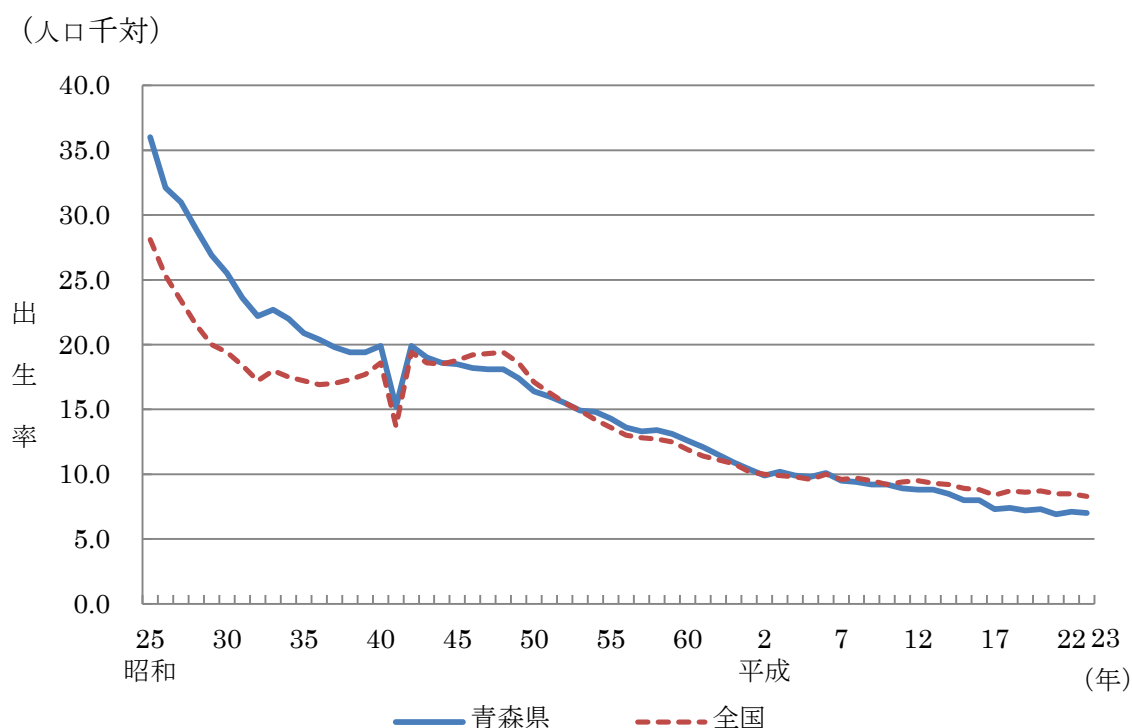
(1) 年 次 推 移

本県における出生率（人口千対）の推移を見ると、昭和 25 年の 36.0 をピークにその後は下降傾向を示し、昭和 37 年には 20.0 を、さらに平成 2 年には 10.0 を割った。平成 7 年以降は緩やかな減少が続いている。

平成 23 年の出生率は 7.0 で、前年の 7.1 を 0.1 ポイント下回っており、全国値の 8.3 より 1.3 ポイント下回っている。（図 1）

また、合計特殊出生率は 1.38 で、前年の 1.38 と同水準であり、全国値の 1.39 を 0.01 ポイント下回っている。

図 1 出生率の年次推移



(2) 地 域 別 出 生

平成 23 年の市部の出生数は 7,624 人、郡部は 1,907 人であり、出生率（人口千対）は市部が 7.3 で郡部の 6.1 を 1.2 ポイント上回っている。

詳細は第 2 章第 6 表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

平成 23 年に出生した子（死産を除く）が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第 1 子 45.2%、第 2 子 36.9%、第 3 子以上が 17.9% となっており、第 1 子と第 2 子で全体の 82.1% を占めている。（第 2 章第 8 表参照）

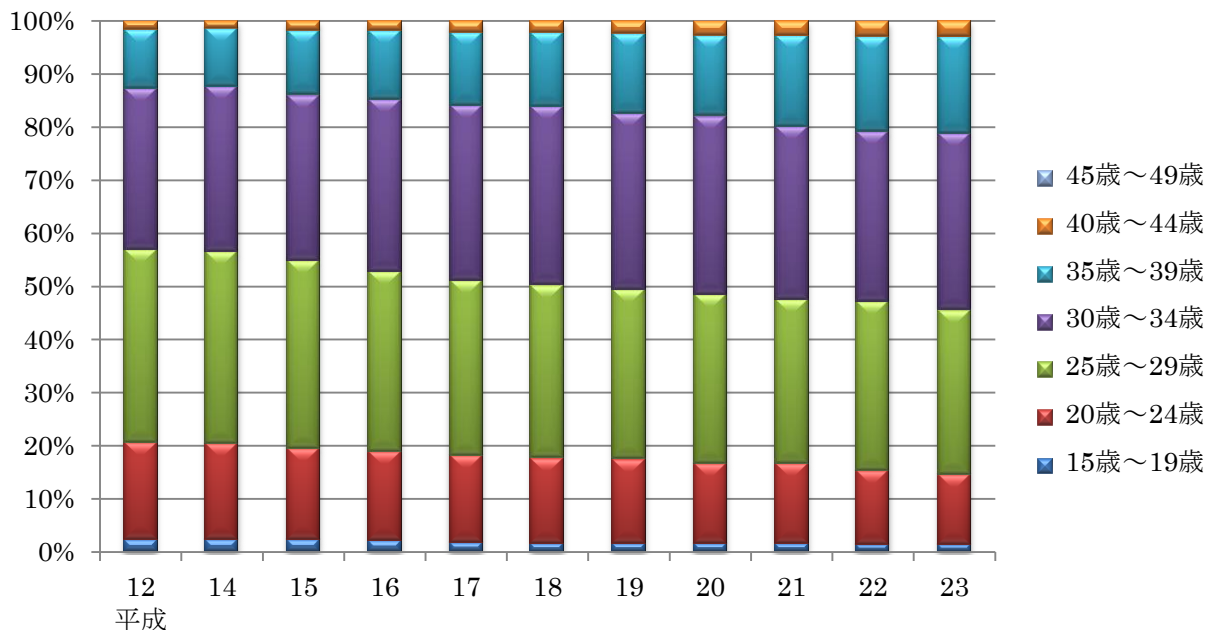
また、平成 23 年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30 歳から 34 歳が 33.4% で最も高く、次いで 25 歳から 29 歳が 30.9% となっている。（表 2）

表 2 母の年齢階級別出生の構成比

(単位：%)

年齢区分	平成 12年	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
15歳～19歳	2.3	2.4	2.3	2.2	1.8	1.7	1.7	1.7	1.6	1.5	1.5
20歳～24歳	18.3	18.1	17.3	16.7	16.4	16.1	15.8	14.9	15.0	13.8	13.1
25歳～29歳	36.3	36.0	35.3	33.8	33.0	32.4	31.9	31.8	30.9	31.8	30.9
30歳～34歳	30.5	31.1	31.2	32.4	32.8	33.6	33.3	33.6	32.5	32.0	33.4
35歳～39歳	10.9	11.0	12.1	13.0	13.8	14.0	15.0	15.2	17.2	17.9	18.1
40歳～44歳	1.6	1.4	1.8	1.9	2.2	2.2	2.3	2.7	2.8	2.9	3.0
45歳～49歳	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0

図 2 母の年齢階級別出生の構成比



2 死 亡

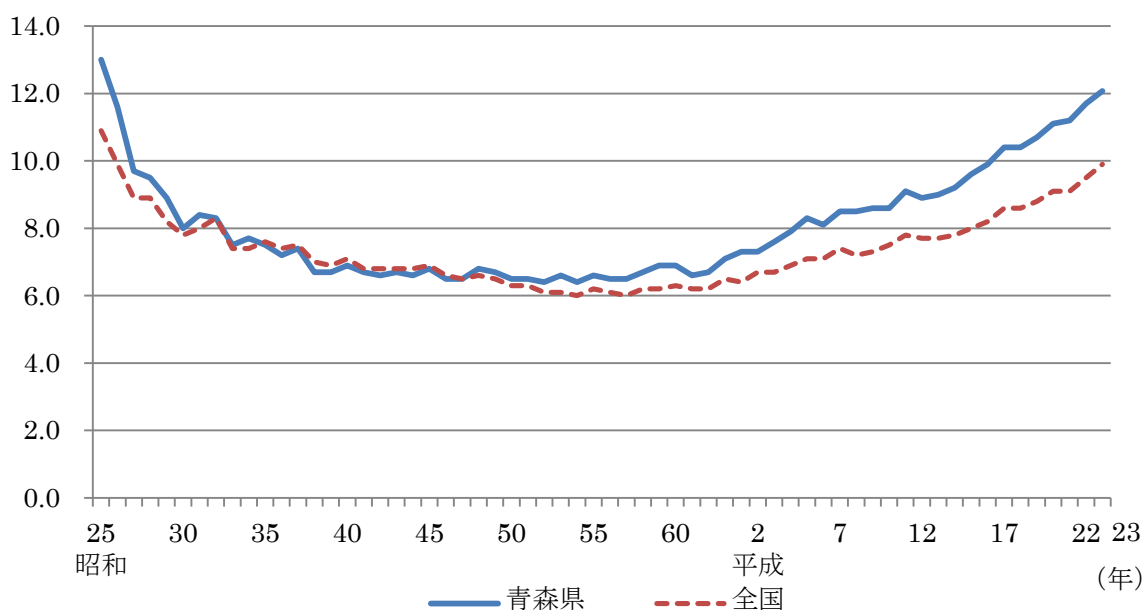
(1) 年 次 推 移

本県における死亡率（人口千対）の推移をみると、昭和 25 年以降著しく低下し、昭和 33 年には 8.0 を割るまでに改善された。しかし、平成 5 年には再び 8.0 を上回り、その後は人口の高齢化を反映して上昇傾向が続いている。

平成 23 年の死亡率は 12.1 で、前年の 11.7 より 0.4 ポイント上回っており、全国値の 9.9 より 2.2 ポイント上回っている。（図 3）

図 3 死亡率の年次推移

（人口千対）



(2) 地 域 別 死 亡

平成 23 年の市部の死亡数は、11,890 人、郡部が 4,529 人で、死亡率（人口千対）は、市部が 11.3 で郡部の 14.4 を 3.1 ポイント下回っている。

詳細は第 2 章第 13 表に記載されているので参照されたい。

(3) 主要死因

本県における主要死因の推移を年次別にみると、昭和 25 年に高かった「結核」が激減し、変わって昭和 27 年に「脳血管疾患」が 1 位となった。その後、「悪性新生物」と「心疾患」が増加し、昭和 57 年には「悪性新生物」が「脳血管疾患」を上回って 1 位になり、さらに昭和 61 年には「心疾患」が「脳血管疾患」を上回り、2 位になった。(図 4)

平成 23 年における本県の 10 大死因をみると、1 位が「悪性新生物 (がん)」、2 位が「心疾患」、3 位が「脳血管疾患」で、1 位から 3 位までで全死亡者の 57.3%を占めている。(表 3、図 5)

なお、男女別にみた主要死因の順位は、男女共に 1 位悪性新生物、2 位心疾患となっており、3 位は男性が肺炎、女性が脳血管疾患となっている。

(表 3)

表 3 死因順位別死亡者数、死亡率
(前年比較・全国比較)

順位	死 因	平成23年			平成22年			差引 増減 (A-B)	平成23年		
		順位	死亡者数	死亡率	順位	死亡者数	死亡率		順位	死亡者数	死亡率
	死 亡 総 数		16,419	1207.3		16,030	1170.4	389		1,253,066	993.1
1	悪性新生物	1	4,803	353.2	1	4,784	349.3	19	1	357,305	283.2
2	心 疾 患	2	2,685	197.4	2	2,634	192.3	51	2	194,926	154.5
3	脳血管疾患	3	1,925	141.5	3	1,883	137.5	42	4	123,867	98.2
4	肺 炎	4	1,736	127.6	4	1,631	119.1	105	3	124,749	98.9
5	老 衰	5	629	46.3	5	608	44.4	21	6	52,242	41.4
6	不慮の事故	6	485	35.7	6	552	40.3	△ 67	5	59,416	47.1
8	腎 不 全	7	432	31.8	8	375	27.4	57	8	24,526	19.4
7	自 殺	8	356	26.2	7	403	29.4	△ 47	7	28,896	22.9
9	糖 尿 病	9	228	16.8	9	227	16.6	1	12	14,664	11.6
10	肝 疾 患	10	216	15.9	10	207	15.1	9	10	16,390	13.0
	そ の 他		2,924	215.0		2,726	199.0			256,085	202.9

注) 死亡者数は人、死亡率は人口10万対である。

(青森県男女比較)

順位	死 因	平成23年					
		男			女		
		順位	死亡者数	死亡率	順位	死亡者数	死亡率
	死 亡 総 数		8,679	1358.2		7,740	1075.0
1	悪性新生物	1	2,893	452.7	1	1,910	265.3
2	心 疾 患	2	1,230	192.5	2	1,455	202.1
3	脳血管疾患	4	930	145.5	3	995	138.2
4	肺 炎	3	978	153.1	4	758	105.3
5	老 衰	9	135	21.1	5	494	68.6
6	不慮の事故	5	288	45.1	7	197	27.4
7	自 殺	7	208	32.6	6	224	31.1
8	腎 不 全	6	261	40.8	9	95	13.2
9	糖 尿 病	10	124	19.4	8	104	14.4
10	肝 疾 患	8	144	22.5	10	72	10.0
	その他		1,488	232.9		1,436	199.4

注) 死亡者数は人、死亡率は人口10万対である。

図4 主要死因別の死亡率の推移

(人口10万対)

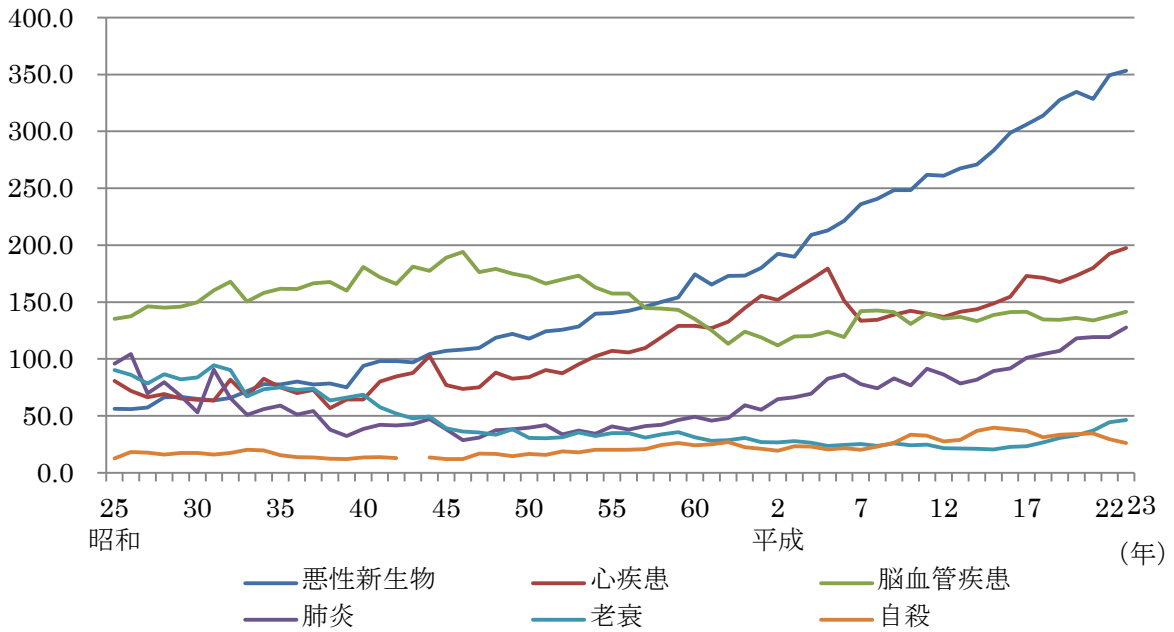
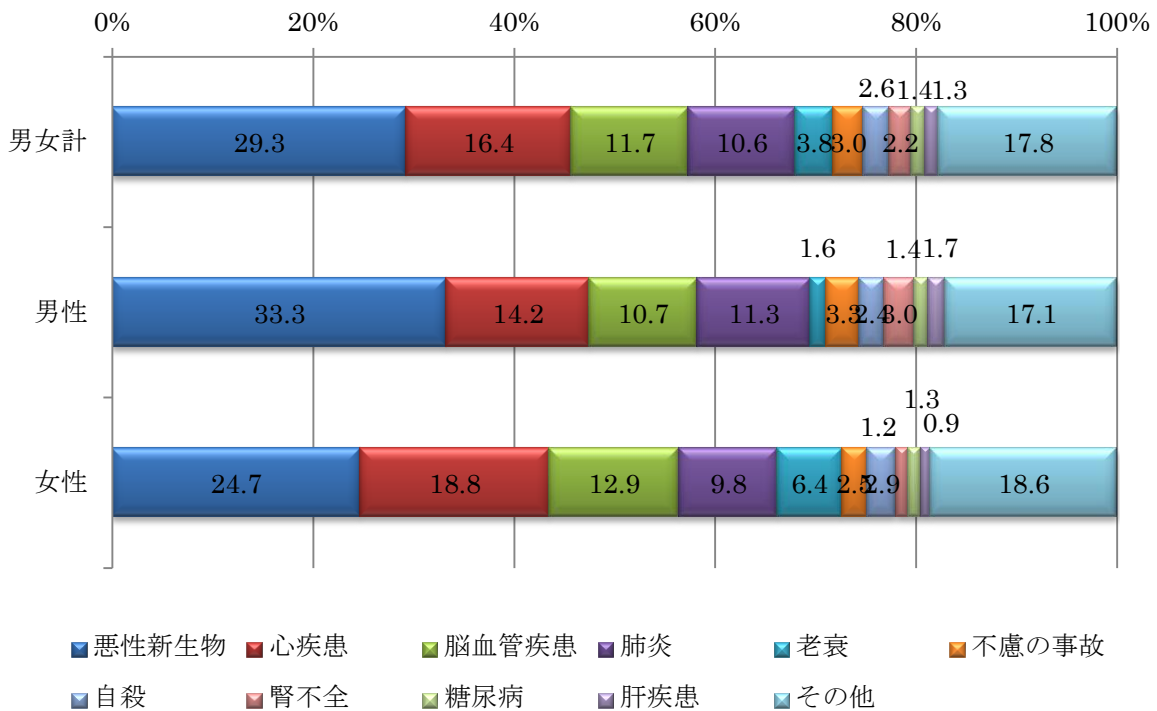


図5 10大死因の構成比



男女の別	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	不慮の事故	腎不全	自殺	糖尿病	肝疾患	その他
計	29.3	16.4	11.7	10.6	3.8	3	2.6	2.2	1.4	1.3	17.8
男性	33.3	14.2	10.7	11.3	1.6	3.3	2.4	3	1.4	1.7	17.1
女性	24.7	18.8	12.9	9.8	6.4	2.5	2.9	1.2	1.3	0.9	18.6

(4) 悪性新生物（がん）

本県における悪性新生物による死亡率（人口10万対）は年々増加傾向にあり、平成23年は353.2で、前年の349.3を3.9ポイント上回っており、全国値の283.2を70.0ポイント上回っている。

部位別では、「気管、気管支及び肺」、「胃」、「結腸」での死亡構成比が高く、これらで全体の43.2%を占めている。（表4）

表4 悪性新生物（がん）主な部位別死亡率、構成比率（年次推移）

		平成 2年	7	12	17	18	19	20	21	22	23
死亡 率	悪性新生物	192.4	236.0	261.0	305.9	313.9	327.7	334.7	328.4	349.3	353.2
	食道	7.0	7.2	10.2	10.4	10.7	11.0	10.4	10.9	10.7	9.8
	胃	41.3	44.2	47.3	46.6	46.9	52.2	48.3	48.5	51.5	51.8
	結腸	-	19.0	22.2	28.3	28.8	30.2	32.2	30.1	35.8	33.9
	直腸S状結腸移行部 及び直腸 ²⁾	7.8	11.2	12.6	13.8	16.5	15.8	18.7	16.8	14.8	17.7
	肝及び肝内胆管 ³⁾	17.2	22.2	21.3	26.4	25.9	26.4	27.2	24.1	26.6	26.8
	胆のう及びその他の胆道	-	15.3	14.5	19.0	18.9	17.7	20.2	20.1	20.7	21.3
	膵	15.3	17.0	20.6	23.2	23.3	28.1	28.1	25.7	29.8	27.7
	気管、気管支及び肺	32.4	40.9	47.7	55.8	56.4	62.2	60.6	62.7	69.0	67.0
	乳房	4.5	7.0	7.7	9.1	11.5	10.9	11.0	10.3	11.3	11.5
	子宮 ⁴⁾	8.4	6.6	7.3	8.2	4.8	8.5	5.3	9.7	9.0	5.7
	白血病	4.5	4.7	3.9	4.2	5.7	5.6	5.7	6.5	5.2	5.7
(再掲)大腸 ⁵⁾	-	30.2	34.8	42.2	45.2	46.0	50.9	46.9	50.6	51.6	
構 成 比	悪性新生物										
	食道	3.6	3.1	3.9	3.4	3.1	3.4	3.1	3.3	3.1	2.8
	胃	21.5	18.7	18.1	15.2	16.4	15.9	14.6	14.8	14.7	14.7
	結腸	-	8.1	8.5	9.3	10.0	9.2	9.7	9.2	10.2	9.6
	直腸S状結腸移行部 及び直腸 ²⁾	4.0	4.7	4.8	4.5	5.2	4.8	5.7	5.1	4.2	5.0
	肝及び肝内胆管 ³⁾	8.9	9.4	8.1	8.6	8.8	8.1	8.2	7.3	7.6	7.6
	胆のう及びその他の胆道	-	6.5	5.5	6.2	6.0	5.4	6.1	6.1	5.9	6.0
	膵	8.0	7.2	7.9	7.6	7.5	8.6	8.5	7.8	8.5	7.8
	気管、気管支及び肺	16.8	17.3	18.3	18.2	17.6	19.0	18.3	19.1	19.8	19.0
	乳房	2.4	3.0	2.9	3.0	3.2	3.3	3.3	3.1	3.2	3.2
	子宮 ⁴⁾	2.3	1.5	1.5	1.4	1.5	1.4	1.6	1.6	1.4	1.6
	白血病	2.4	2.0	1.5	1.4	1.5	1.7	1.7	2.0	1.5	1.6
(再掲)大腸 ⁵⁾	-	12.8	13.3	13.8	15.2	14.0	15.4	14.3	14.5	14.6	

注：1) 死亡率は人口10万対、構成比は%である。なお、死亡率のうち、子宮は女性人口10万対である。

注：2) 平成6年までは、「直腸、直腸S状結腸移行部及び肛門」。

注：3) 平成6年までは「肝」。

注：4) 平成6年までは胎盤を含む。

注：5) 結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を含む。

表5 悪性新生物（がん）部位別死亡数、死亡率、構成比率

(平成23年)

区分	死亡数 (人)			死亡率 (人口10万対)			構成比 (%)		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
悪性新生物	4,803	2,893	1,910	353.2	452.7	265.3			
口唇, 口腔及び咽頭	106	80	26	7.8	12.5	3.6	2.2	2.8	1.4
食道	133	121	12	9.8	18.9	1.7	2.8	4.2	0.6
胃	704	461	243	51.8	72.1	33.8	14.7	15.9	12.7
結腸	461	218	243	33.9	34.1	33.8	9.6	7.5	12.7
直腸S状結腸移行部 及び直腸	241	160	81	17.7	25.0	11.3	5.0	5.5	4.2
肝及び肝内胆管	365	239	126	26.8	37.4	17.5	7.6	8.3	6.6
胆のう及び その他の胆道	289	153	136	21.3	23.9	18.9	6.0	5.3	7.1
膵	377	182	195	27.7	28.5	27.1	7.8	6.3	10.2
喉頭	20	18	2	1.5	2.8	0.3	0.4	0.6	0.1
気管, 気管支及び肺	911	685	226	67.0	107.2	31.4	19.0	23.7	11.8
皮膚	23	8	15	1.7	1.3	2.1	0.5	0.3	0.8
乳房	156	1	155	11.5	0.2	21.5	3.2	0.0	8.1
子宮 ¹⁾	78	・	78	5.7	・	10.8	1.6	・	4.1
卵巣 ¹⁾	62	・	62	4.6	・	8.6	1.3	・	3.2
前立腺 ¹⁾	134	134	・	9.9	21.0	・	2.8	4.6	・
膀胱	118	82	36	8.7	12.8	5.0	2.5	2.8	1.9
中枢神経系	25	12	13	1.8	1.9	1.8	0.5	0.4	0.7
悪性リンパ腫	138	81	57	10.1	12.7	7.9	2.9	2.8	3.0
白血病	77	47	30	5.7	7.4	4.2	1.6	1.6	1.6
その他のリンパ組織	45	29	16	3.3	4.5	2.2	0.9	1.0	0.8
その他	340	182	158	25.0	28.5	21.9	7.1	6.3	8.3
(再掲) 大腸 ²⁾	702	378	324	51.6	59.2	45.0	14.6	13.1	17.0

注：1) “・”は表章することが不適当な項目。

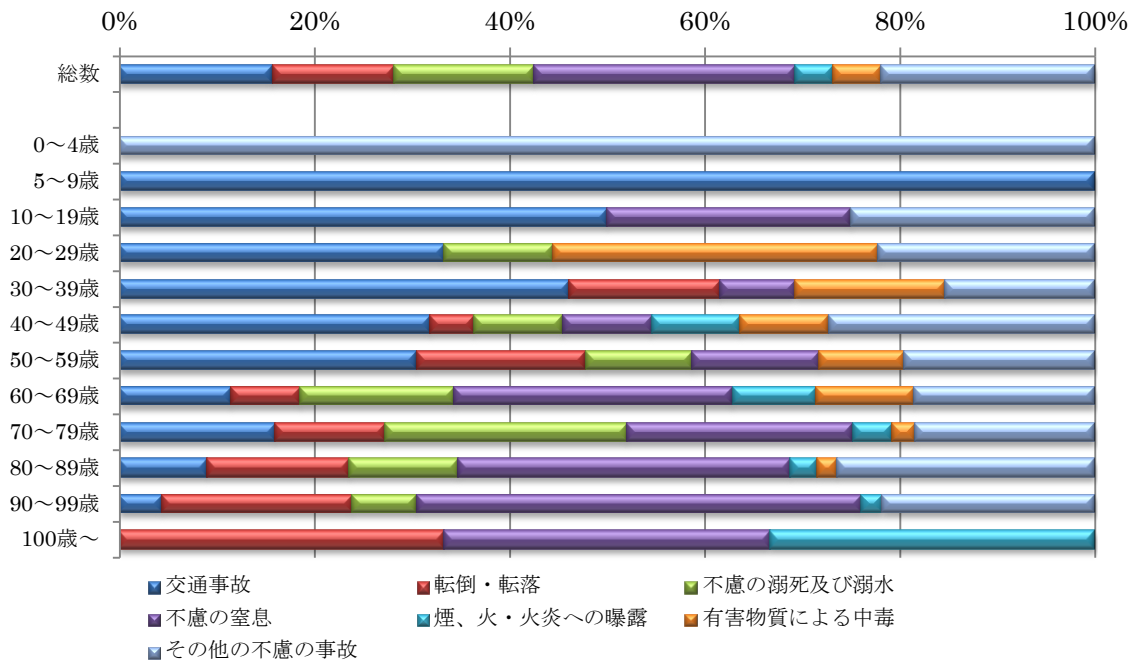
注：2) 結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を含む。

(5) 不慮の事故

本県における平成23年の不慮の事故による死亡率(人口10万対)は35.7で、前年の40.3を4.6ポイント下回っており、全国値の47.1を11.4ポイント下回っている。

また、不慮の事故の原因別構成比で見ると、「不慮の窒息」が26.8%と最も多く、次いで「交通事故」、「不慮の溺死及び溺水」、「転倒・転落」の順となっている。(図6)

図6 不慮の事故による死亡数の年齢階級別構成比



交通事故	76	-	1	2	3	6	7	14	8	20	13	2	-
転倒・転落	61	-	-	-	-	2	1	8	5	14	21	9	1
不慮の溺死 及び溺水	69	-	-	-	1	-	2	5	11	31	16	3	-
不慮の窒息	130	-	-	1	-	1	2	6	20	29	49	21	1
煙、火・火炎 への曝露	19	-	-	-	-	-	2	-	6	5	4	1	1
有害物質 による中毒	24	-	-	-	3	2	2	4	7	3	3	-	-
その他の 不慮の事故	106	2	-	1	2	2	6	9	13	23	38	10	-

構成比 (%)	総数	0~4歳	5~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90~99歳	100歳~
交通事故	15.7	-	100.0	50.0	33.3	46.2	31.8	30.4	11.4	16.0	9.0	4.3	-
転倒・転落	12.6	-	-	-	-	15.4	4.5	17.4	7.1	11.2	14.6	19.6	33.3
不慮の溺死 及び溺水	14.2	-	-	-	11.1	-	9.1	10.9	15.7	24.8	11.1	6.5	-
不慮の窒息	26.8	-	-	25.0	-	7.7	9.1	13.0	28.6	23.2	34.0	45.7	33.3
煙、火・火炎 への曝露	3.9	-	-	-	-	-	9.1	-	8.6	4.0	2.8	2.2	33.3
有害物質 による中毒	4.9	-	-	-	33.3	15.4	9.1	8.7	10.0	2.4	2.1	-	-
その他の 不慮の事故	21.9	100.0	-	25.0	22.2	15.4	27.3	19.6	18.6	18.4	26.4	21.7	-

3 乳 児 死 亡

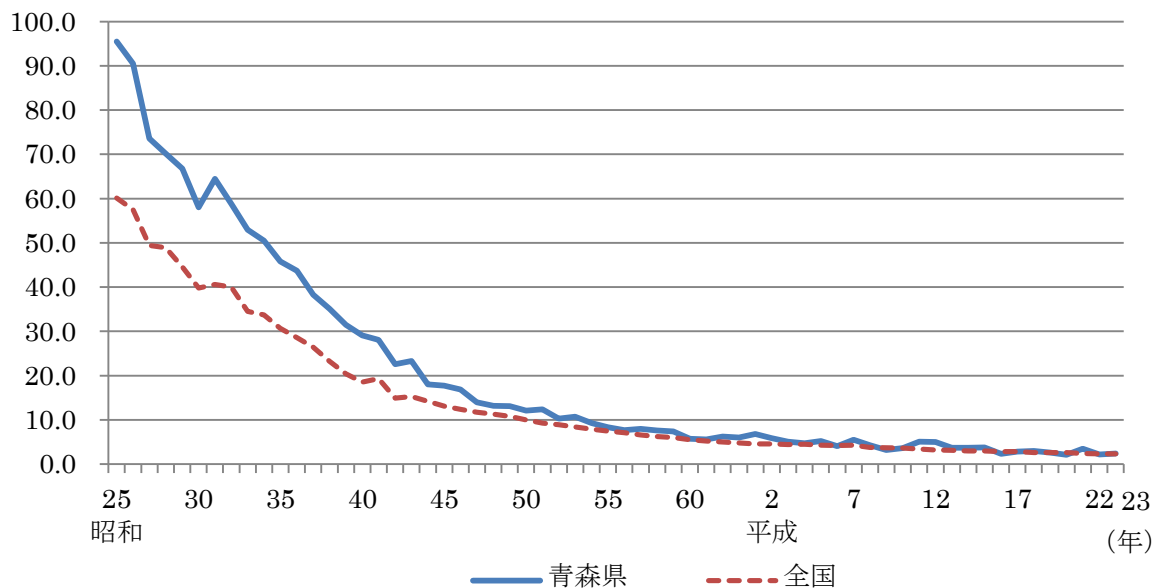
(1) 年 次 推 移

本県における乳児死亡率（出生千対）は、昭和 25 年は 96.5 であったが、その後大幅に改善され、昭和 54 年には 10.0 を割るまでになり、以降も低下を続けたが、平成 4 年以降は横ばいの状態が続いている。

平成 23 年の乳児死亡率は 2.4 で、前年の 2.2 を 0.2 ポイント上回り、全国値の 2.3 より 0.1 ポイント上回っている。（図 8）

図 7 乳児死亡率の年次推移

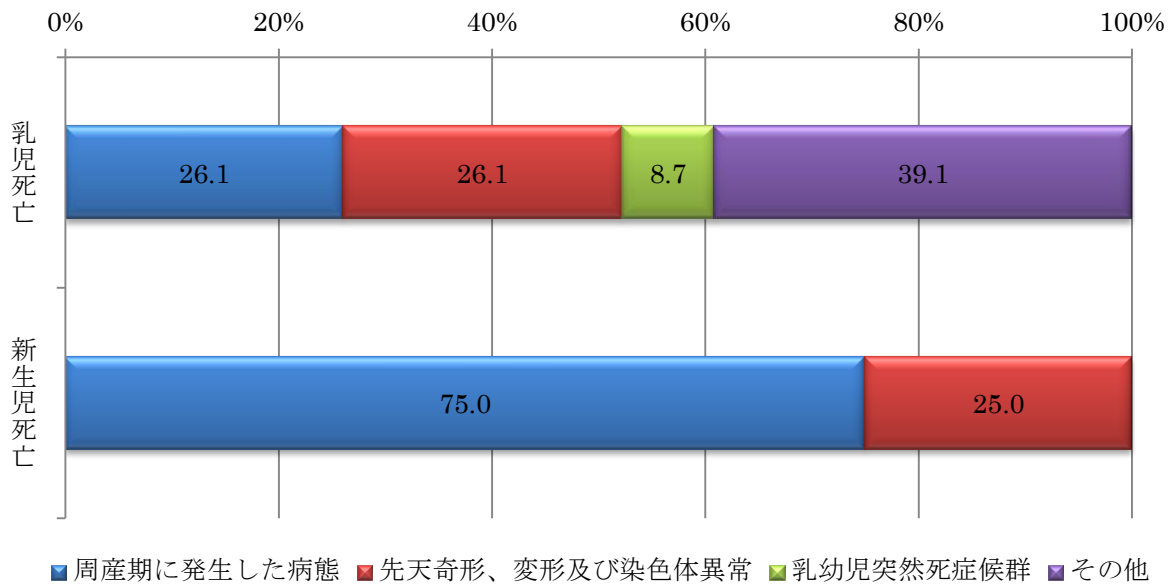
（出生千対）



(2) 乳児死亡の主要原因

平成 23 年の乳児死亡を主要死因別構成比で見ると、「周産期に発生した病態」と「先天奇形、変形及び染色体異常」による死亡が高く、次いで「乳幼児突然死症候群」となっている。(図 8)

図 8 乳児及び新生児死亡率の主要死因構成比



4 新生児死亡

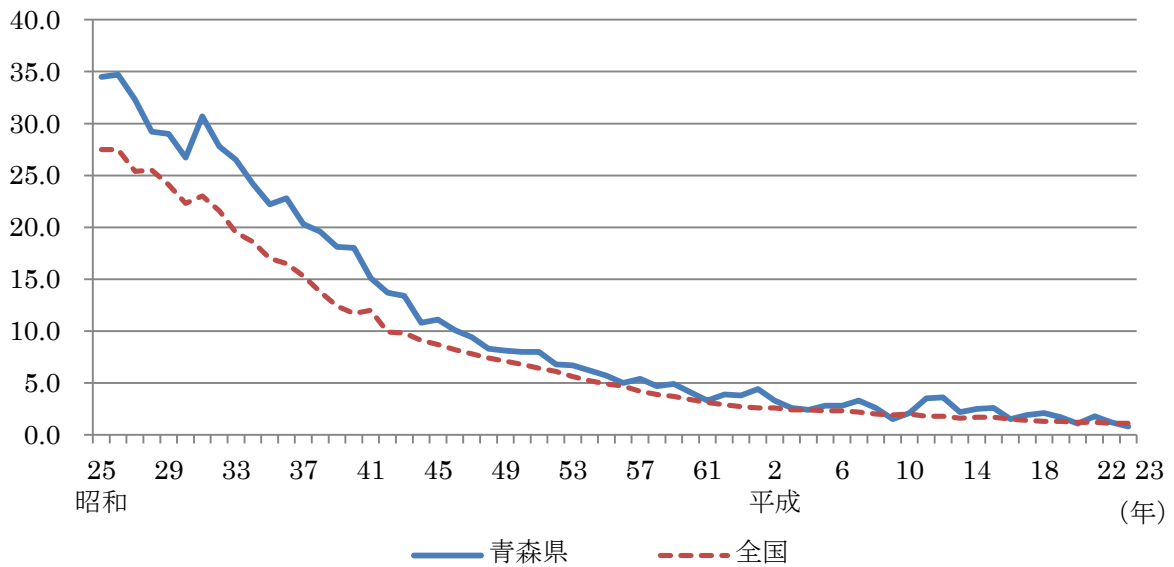
(1) 年次推移

新生児死亡率（出生千対）は、昭和 26 年以降、乳児死亡率と同様に、増加と減少を繰り返しながら緩やかに減少している。

平成 23 年の新生児死亡率は 0.8 で、前年の 1.2 を 0.4 ポイント下回っており、全国値の 1.1 を、0.3 ポイント下回っている。（図 9）

図 10 新生児死亡率の年次推移

（出生千対）



(2) 新生児死亡の主要死因

平成 23 年の乳児死亡を主要死因別構成比で見ると、「周産期に発生した病態」が最も高く、全体の 75.0% を占め、残りは「先天奇形、変形及び染色体異常」となっている。（図 8）

5 死 産

本県における死産率（出産千対：（出生＋死産）千対）は、昭和 25 年以降上昇傾向にあったが、その後、昭和 35 年をピークに下降した。一方、昭和 41 年（ひのえうま年）には急激に上昇し 102.3 となった。

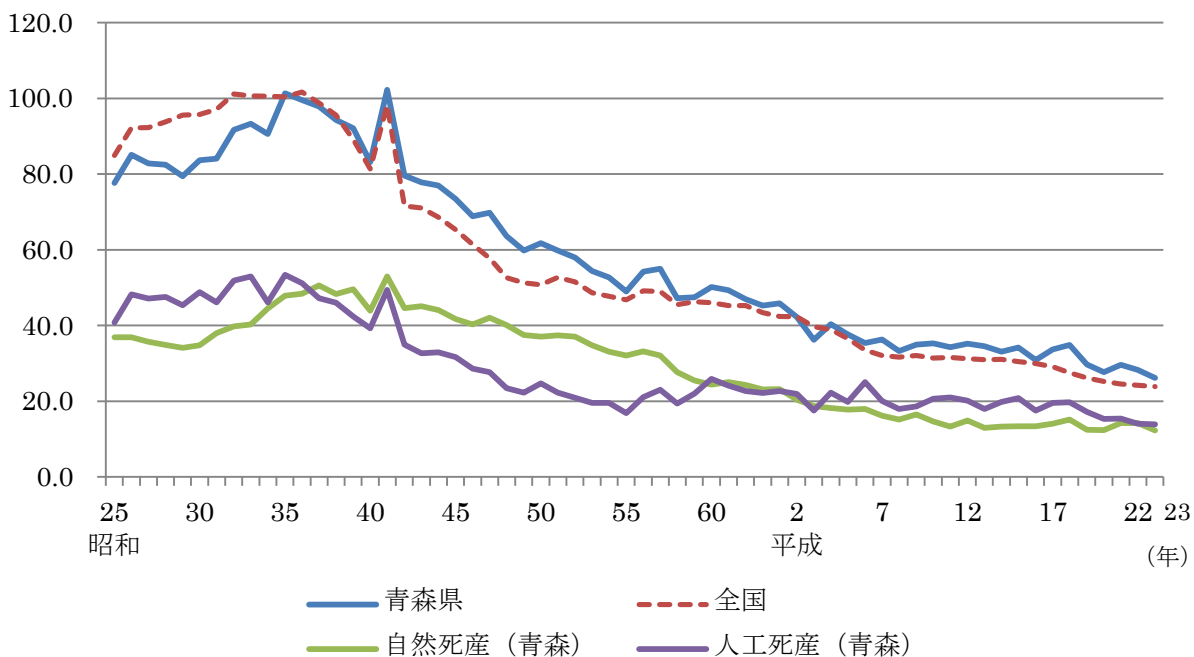
なお、死産率のうち、自然死産率は昭和 41 年をピークに緩やかな減少傾向を示している。人工死産率は昭和 55 年に 20.0 を大きく下回ったものの、その後は再び 20.0 前後で推移し、横ばいの状況となっていたが、平成 19 年からは減少傾向が続いている。（図 10）

平成 23 年の死産率は 26.2 で、前年の 28.3 より 2.1 ポイント下回っており、全国値の 23.9 より 2.3 ポイント上回っている。（図 10）

また、自然死産率は 12.3 で、前年の 14.2 より 1.9 ポイント下回り、人工死産率は 13.9 で、前年の 14.1 を 0.2 ポイント下回っている。

図 10 死産率の年次推移

（出産千対）



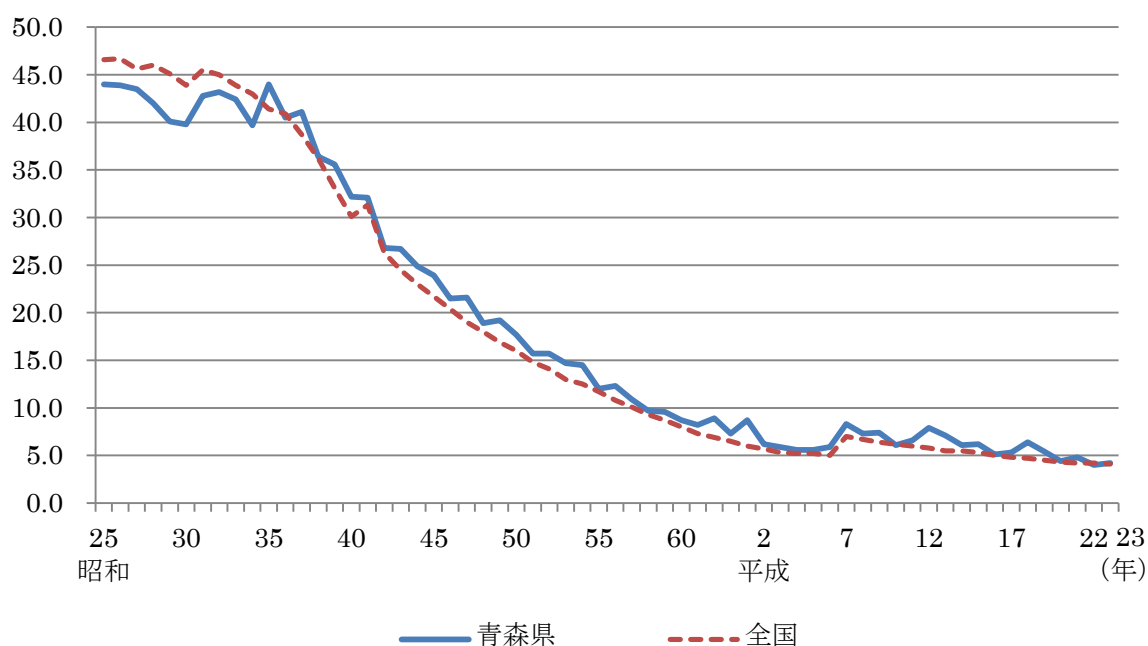
6 周産期死亡

本県における周産期死亡率（平成 6 年までは出生千対、平成 7 年からは出産千対（出生＋満 22 週以後の死産）による）は、昭和 37 年まで 40.0 ポイント台で推移してきたが、昭和 38 年以降大幅に低下してきた。

平成 23 年の周産期死亡率は 4.2 で、前年の 4.0 を 0.2 ポイント上回っており、全国値の 4.1 を 0.1 ポイント上回っている。（図 11）

図 11 周産期死亡率の年次推移

（出産千対）



注：1) 周産期死亡は、「妊娠満 22 週以後の死産と早期新生児を加えたもの」から「妊娠満 22 週以後の死産と早期新生児死亡を加えたもの」に改正された。

注：2) 周産期死亡率は、平成 6 年までは出生千対。平成 7 年以降は、出産千対（出生＋妊娠満 22 週以後の死産の千対）。

7 婚 姻

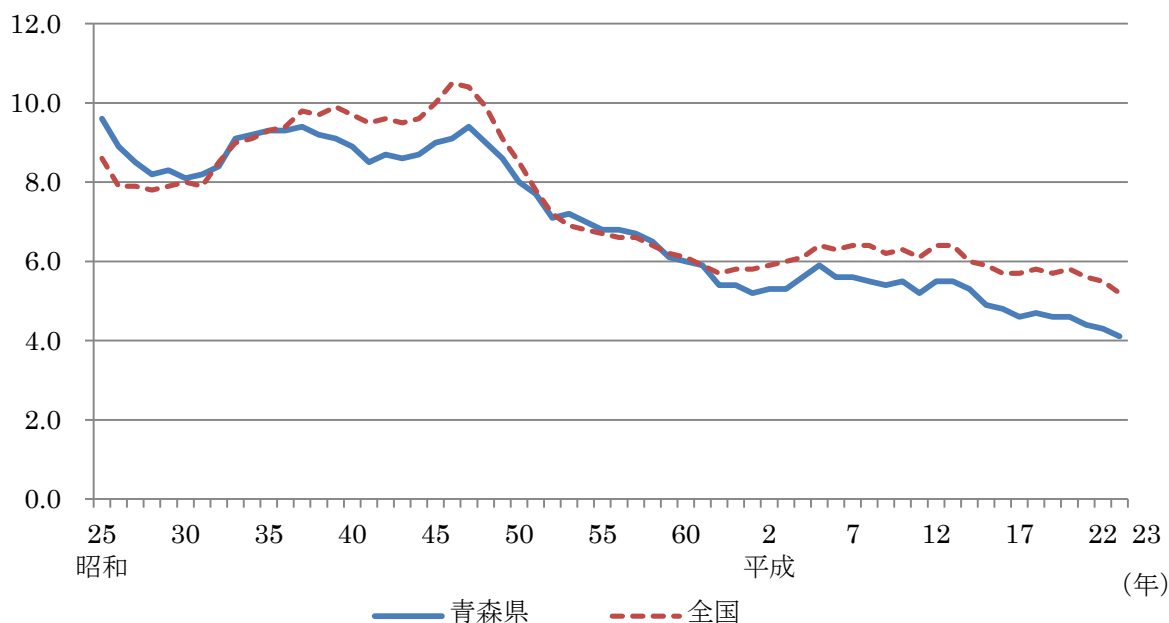
(1) 年 次 推 移

本県における婚姻率（人口千対）は、昭和 25 年以降 8.0～10.0 前後で推移していたが、昭和 47 年から下降傾向を示しており、昭和 61 年には 6.0 を割り込んだ。

平成 23 年の婚姻率は 4.1 で、前年の 4.3 を 0.2 ポイント下回っており、全国値の 5.2 を 1.1 ポイント下回っている。（図 12）

図 12 婚姻率の年次推移

（人口千対）



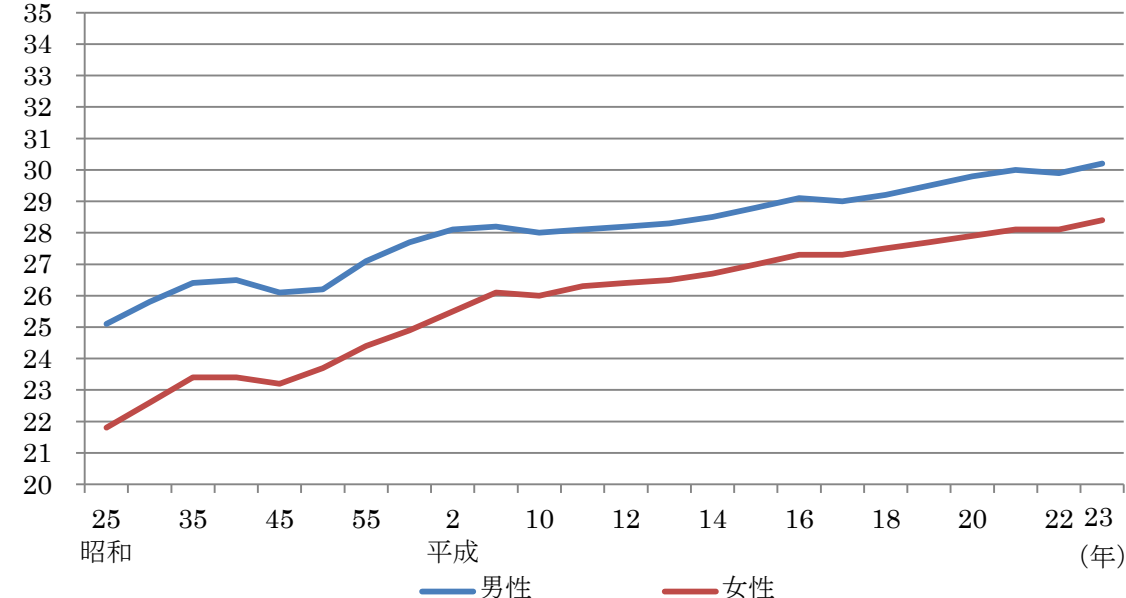
(2) 平 均 初 婚 年 齢

本県における平均初婚年齢について、昭和 25 年以降の年次推移をみると、夫、妻ともに年齢が高くなっている。（図 13）

平成 23 年の平均初婚年齢（平成 23 年に結婚生活に入ったもので、結婚式を挙げた時、または同居を始めた時の年齢）は、夫が 30.2 歳、妻が 28.4 歳であり、全国値の夫 30.7 歳、妻 29.0 歳より、夫が 0.6 歳、妻が 0.7 歳下回っている。

図 13 平均初婚年齢の年次推移

（歳）



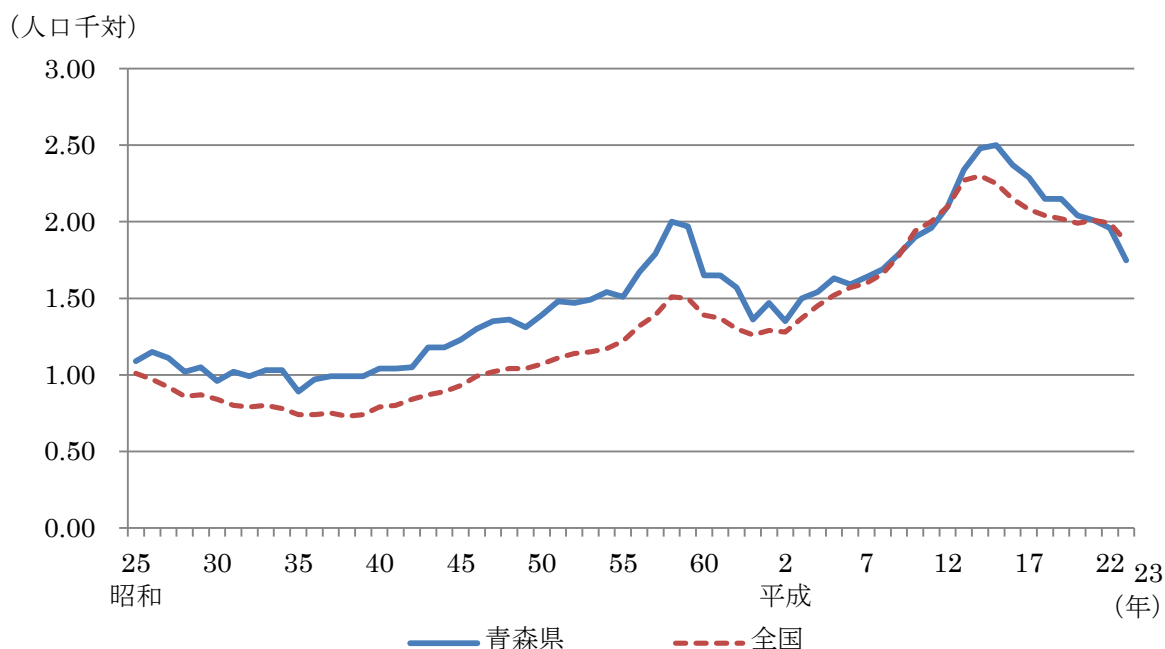
8 離 婚

(1) 年 次 推 移

本県における離婚率（人口千対）は、昭和 25 年以降横ばい状況が続いたが、昭和 40 年代から上昇し、昭和 58 年には 2.0 となった。それ以降は下降傾向を示していたが、平成 3 年から再び上昇したものの平成 16 年から減少傾向を示している。

平成 23 年の離婚率は 1.75 で、前年の 1.96 より 0.21 ポイント下回っており、全国値の 1.87 を 0.12 ポイント下回っている。（図 14）

図 14 離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

平成 23 年の離婚件数 2,377 件のうち、結婚 5 年未満で離婚した件数の構成比は 31.7%で最も多く、次いで 5～10 年の 21.9%、20 年以上の 17.9%の順となっている。（表 6）

表 6 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	平成 2年	7年	12年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
0～5年	32.5	36.4	36.7	34.4	34.1	32.1	34.6	33.1	31.5	32.3	29.0	31.7
1年未満	7.6	7.1	6.5	5.8	5.5	5.5	5.8	6.0	5.9	6.1	4.9	5.4
	7.2	9.3	8.4	7.6	7.5	7.5	8.1	6.9	6.5	7.5	6.4	7.4
	6.5	8.2	7.7	7.6	7.6	7.6	6.7	7.4	6.9	6.9	6.8	7.3
	5.7	6.1	7.9	6.6	7.4	7.4	7.0	6.5	6.8	6.7	6.0	6.2
	5.5	5.8	6.2	6.8	6.1	6.1	6.9	6.4	5.5	5.1	5.0	5.4
5～10年	20.7	19.0	22.4	21.8	22.5	23.0	23.4	23.6	23.1	20.7	22.2	21.9
10～15年	16.1	13.2	11.0	13.2	12.9	13.9	12.6	14.0	14.0	14.5	13.7	14.7
15～20年	13.2	11.0	8.5	10.0	9.7	9.9	9.0	9.8	9.6	10.2	10.2	10.4
20年以上	17.3	18.9	18.1	19.6	20.0	19.2	18.5	17.4	17.9	19.5	20.1	17.9

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院数

平成23年10月1日現在の病院数は102施設で、前年の104施設から2施設減少している。人口10万対では7.5で、前年の7.6を0.1ポイント上回り、全国値である6.7を0.8ポイント上回った。

(2) 一般診療所数

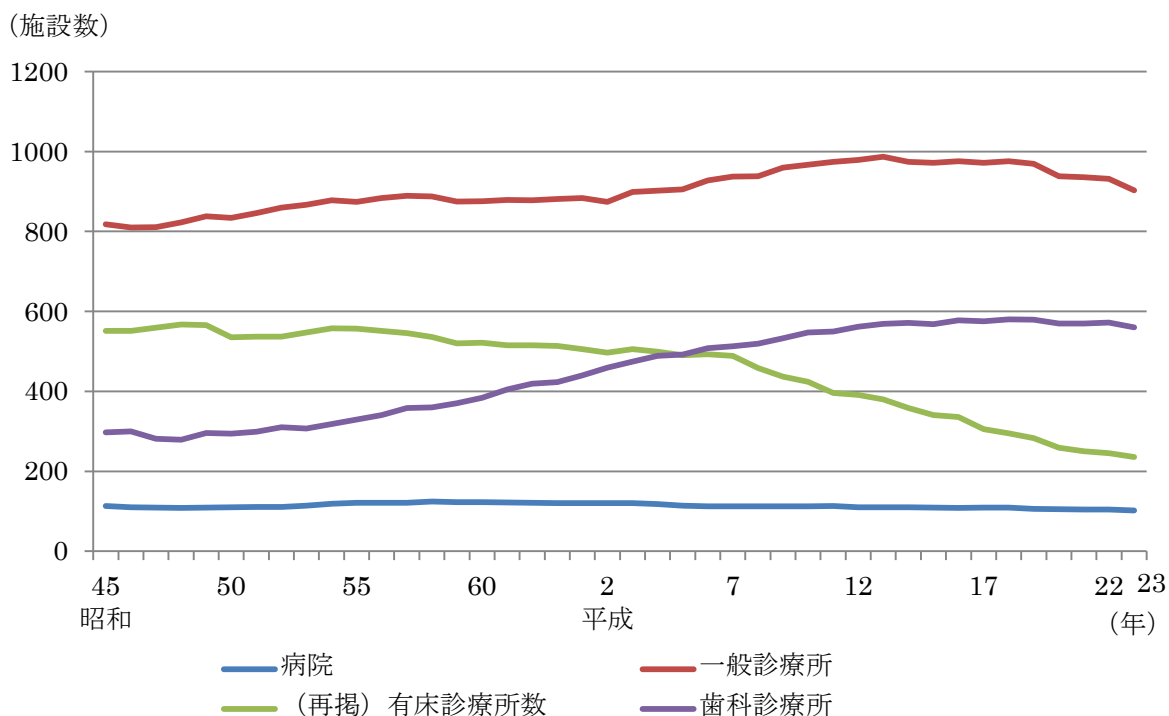
平成23年10月1日現在の一般診療所数は903施設で、前年の932施設から29施設減少している。人口10万対では66.3で、前年の67.9を1.6ポイント下回り、全国値である77.9を11.6ポイント下回った。

そのうち、有床診療所は236施設で、前年の245施設から9施設減少し、診療所全体の26.1%（全国値10.0%）となっている。

(3) 歯科診療所数

平成23年10月1日現在の歯科診療所数は560施設で、前年の572施設から12施設減少している。人口10万対では41.1で、前年の41.7を0.6ポイント下回り、全国値である53.3を12.2ポイント下回った。

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

平成 22 年 12 月 31 日現在の医師数は 2,636 人であり、前回調査の平成 20 年に比べ、73 人増加している。

また、人口 10 万対では 191.9 であり、平成 20 年に比べ、7.8 ポイント増加している。これを全国値の 230.4 と比較すると、38.5 ポイント少ない。

表 1 医師数の年次推移

(単位：人)

		平成 4年	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年
青森県	医師数	2,331	2,377	2,432	2,487	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636
	人口 10万対	158.4	161.6	164.0	168.3	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	191.9
全国	医師数	219,704	230,519	240,908	248,611	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049
	人口 10万対	176.5	184.4	191.4	196.6	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4

(2) 歯科医師

平成 22 年 12 月 31 日現在の歯科医師数は 781 人であり、前回調査の平成 20 年に比べ、8 人減少している。

また、人口 10 万対では 56.9 であり、平成 20 年に比べ 0.2 ポイント増加している。これを全国値の 79.3 と比較すると、22.4 ポイント少ない。

表 2 歯科医師数の年次推移

(単位：人)

		平成 4年	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年
青森県	歯科 医師数	634	681	708	730	717	758	757	777	789	781
	人口 10万対	43.1	46.3	47.7	49.4	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9
全国	歯科 医師数	77,416	81,055	85,518	88,061	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	10,576
	人口 10万対	62.2	64.8	67.9	69.6	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3

(3) 薬剤師

平成 22 年 12 月 31 日現在の薬剤師数は 2,012 人であり、前回調査の平成 20 年に比べ、130 人増加している。

また、人口 10 万対では 146.5 であり、平成 20 年に比べ 11.3 ポイント増加している。これを全国値の 215.9 と比較すると、69.4 ポイント少ない。

表 3 薬剤師数の年次推移

(単位：人)

		平成 4年	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年	22年
青森県	薬剤師数	1,237	1,347	1,422	1,519	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012
	人口 10万対	84.0	91.6	95.9	102.8	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5
全国	薬剤師数	162,021	176,871	194,300	205,953	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751	276,517
	人口 10万対	130.2	141.5	154.4	162.8	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9